心ゆたかに　力たくましく――

1974.9 No. 3

あすなろ国体

AOMORI 52

全日本ウェイトリフティング選手権大会（平賀町）

第32回国民体育大会青森県実行委員会

52年青森国体正式決定!!

青森県知事　竹内俊吉

県民のみなさん、待望久しかった昭和五十二年青森国体が去る七月三日に開かれました日本体育協会理事会において、満場一致で正式決定されました。

ここに決意を新たにして、所期の目的達成のために努力して参りたいと存じます。

第三十二回国民体育大会が青森県で開催されることが正式決定されるまでの経過をふり返えって見ますと、初めて本県が国民体育大会の誘致を表明したのが昭和三十六年十二月でございますので、正式決定をみるまで実に十四年の長い歳月を要したわけであります。

この間、他県との調整などいろいろ困難な事態に直面致しましたが、県民のみなさんのあたたかいご理解とご協力によりましてこのたびの正式決定をみましたことに深く感謝を申し上げますとともに、この正式決定を県民のみなさんとともに心から喜びをわかちあいたいと思います。

昭和五十二年に開かれます「あすなろ国体」は、ご承知のとおり冬季のスケート、スキー、夏季の水泳、ヨット、漕艇、秋季の陸上競技ほか二十四競技を同一県で行う国体史上かって例を見ない規模ですので、受入準備も広範多岐にわたっておりますが、一四二万県民の総力を結集して、着実に発展する青森県の姿を象徴するにふさわしい「あすなろ国体」の実現を期して参りたいと考えております。

尚一層のご理解とご協力を切にお願い申しあげる次第であります。

第三十二回国民体育大会青森県実行委員会発足

昭和五十二年青森国体正式決定にともない、受入れ体制を整えるため、さる八月一日県農業会館において、第三十二回国民体育大会青森県準備委員会の第五回委員総会が開かれました。

準備委員会委員総会では、開催準備の経過、正式決定の報告、四十八年度の決算が承認されたあと、「準備委員会」を「実行委員会」に改組することが満場一致で議決され、ただちに実行委員会の第一回委員総会に切り替えられました。

実行委員会委員総会では、次の「国体開催の基本方針」および「実施目標」等が採択され、「あすなろ国体」はいよいよ準備段階から実行段階へと大きく一歩を踏み出しました。

◆開催基本方針

国民体育大会の本旨に沿い、一四二万県民の総力を結集して、着実に発展しつつある青森県の姿を象徴するにふさわしい「あすなろ国体」の実現を期し、これを契機として、県民の体力の向上と気力の充実を図り、明るく豊かな県民生活の基盤をつちかい、県政の飛躍的発展に寄与する。

◆実施目標

一、県、市町村、体育団体および関係機関団体の緊密な連携のもとに、県民総参加の態勢を整え、大会運営の万全を期する。

二、体育施設を充実して、スポーツの振興を図り、県民の体位・体力の向上を目ざす。

三、県民総参加のもとに、ひろく県民運動を展開し、心身ともに健康で、豊かな情操と、すぐれた創造力をもち、明日への飛躍をめざす県民性をつちかい、明るく美しい社会環境をつくる。

四、道路、観光施設等社会資本の整備拡充を図る。

五、ゆたかなあたたかい心をもって、全国から集まる若人と友情を深める。

「あすなろ国体」県民運動始まる〈上〉

国体開催を契機に行われる「あすなろ国体」県民運動は、「花いっぱい運動」など八つの運動部会が組織され、それぞれ実践活動へのスタートラインについた。

そこで、二回にわたり各運動の方針・実践方法等を紹介します。

花いっぱい運動

花いっぱい運動は、昭和五十二年「あすなろ国体」を契機に行われる「美しい環境づくり」の一環として、みんなで花を植え、花を育て、街を花でいっぱいにすることにより、地域住民に安らぎを与えるとともに、美しい青森県をつくり、国体にやってくる選手、役員ら多くの方々を花いっぱいで迎えようと行われるものです。

さらに、花を育てることにより、県民全体が国体に参加していただくためのものでもあります。

今年度は、花いっぱい運動の具体的な実践についての準備段階として、花いっぱい運動推進部会の開催、「国体の花」の推奨、ならびに「花だんコンクール」等を実施しています。

「国体の花」は、国体開催期間中、美しく咲きそろい、しかも育てやすい花を、次の候補花の中から数種類選ぶ予定でおります。

「国体の花」の候補花

わい性ダリヤ、キク、リンドウ、アゲラタム、ペチュニア、コスモス、サルビア、わい性ケイトウ、ベコニヤ、マリーゴールド。

また、花だんコンクールは、美しい花を作るための技術の向上を目ざし、昭和四十八年度から実施しております。今年は、青森市をはじめ四市で学校、職場のグループ、各家庭等が参加して花だんコンクールが行なわれておりますが、今後さらにこの輪を広げて、多くのみなさんが参加できるようにしたいものです。

次に、来年度以降、みなさんが美しい花で街をかざるために次のことを計画しております。

①種苗、肥料、農薬等はできるだけ、グループ単位で共同購入共同利用できるようにします。

②花づくりを普及するために、講習会、研修会等をできるだけ多く開催します。

③青森県にあった花のつくり方についてのパンフレット等を作ります。

今まで述べたように、花いっぱい運動は、花を愛する県民すべてが、街を花で美しくすることで国体に参加する運動ですが国体を一つの目標とした永続性のある運動として、県民生活に定着したいものです。

あなたの学校、職場、家庭に花を植え、美しい環境をつくりましょう。

緑いっぱい運動

青森県での国体開催が決定しましたが、ご承知のとおり、本県で開催される国体は、本県の県木であるヒバにちなんで「あすなろ国体」と名付けられ、また、「あおもり国体」という名のとおり、緑あふれる国体のイメージがあり、青森を訪れる方は、青い森の名にふさわしい、緑いっぱいの土地と想像して訪れると思います。

この意味から、この緑いっぱい運動は、他県の場合と異った大きな意義をもっているといえるでしょう。

そこで、緑いっぱい運動は、「美しい環境づくり」を目標として、国体を契機に、緑いっぱいの豊かで住みよい郷土をつくろう、緑をいたわり、愛護する心を養おうという方針で運動を展開していきます。

この方針をもとに、具体的な推進計画として、

①「緑の月間の実施」　春の一ケ月間を緑の月間とし、この期間中に、緑化宣伝のチラシラジオ、テレビ等を通じて、緑化の啓蒙を図り、緑のもつ多面的な効用、はたらき、緑化の重要性を普及する。

②「公共樹愛護運動」　街路樹、公園の木等公共緑化木に名札をつけたり、樹木愛護の標語を入れた標板をつけて、公共樹を愛護する心を深める。

③「環境緑化整備事業」　国体開催を契機に、郷土を緑でつつみ、美しい環境をつくるため、学校、公園等に植樹を行う。

以上、三つの推進計画のもとに、緑いっぱい運動の推進を図ります。

「街を緑にする」といっても木を植えた後、緑になるまでには、水をやったり、草取りや肥料もやらなければなりません。また、枝をすいたり、冬になれば雪囲いも必要です。このような植樹後の保護管理に長い間の労苦を必要としますので、県民のみなさんとともに、長い間の木に対する愛情をもって、緑を育て、緑の街にしたいものです。

緑は、いろいろな小鳥を呼び、小鳥は人を呼んで心を安らげてくれます。美しい自然は、私たちにとって、かけがえのない宝となるでしょう。

この「緑いっぱい運動」を機会に、緑が果たす役割を、もう一度見直し、そして、私たちのまわりを緑で埋め、明るく美しい環境をつくり、私たちの郷土を文字どおり「青い森」にしたいものです。

●まちやむらを清潔にする運動

この運動は、美しい環境づくりの一環として、みんなで清潔な生活環境を整え、国体を気持よく迎えるとともに進んで環境美化につとめる生活態度を養いましょうというのがねらいであります。

したがいまして、まず、自分の身の回りをきれいにすることを柱として、家庭、職場、公共地の清掃や美化運動を進めるために、

①まちやむらを清潔にする三ない運動（ゴミを出さない、捨てない、汚さない）をすすめよう。

②自分の家のまわりや店の前、公共地の清掃活動を積極的にすすめよう。

を実践項目としてとりあげ、具体的な活動を展開してほしいと思います。

県民一人一人が自分たちの力で生活環境をよくし、明るく住みよい郷土をつくるため、積極的にこの運動に取り組んでいきましょう。そして、五十二年には清潔で美しい国体を迎えたいものです。

●スポーツを楽しむ運動

国体は、スポーツを普及し、国民の健康増進と体力の向上を図るとともに国民生活をより明るく豊かにしようとすることを目的としております。

そこで、スポーツを楽しむ運動は、国体開催を機に、青森国体のテーマ「心ゆたかに　力たくましく」の精神をこの運動に盛りあげ、県民みんながスポーツ、レクリエーションに参加し、健康な体と豊かな心を養おうということを主眼点としております。

この運動では、各関係団体、市町村と連けいをとりながら、実践項目を

①国体開催の意義を理解し、国体の歌やスポーツの歌をみんなで歌い、スポーツの輪をひろげよう。

②スポーツテストを実施し、それぞれの体力を認識し、体力づくりに努めよう。

③スポーツ少年団を育成し、スポーツへの参加をすすめよう。

④各種スポーツクラブやグループをつくり、いつでも、だれでも参加できるようにしよう。

とし、実践活動をすすめていきたいと思います。

すでに、女性のための軽スポーツ等各種スポーツ事業をすすめておりますので、県民のみなさんの積極的なスポーツ、レクリエーションへの参加をお待ちしております。

52年を目指す《あすなろ》たち＝中体連＝

「あかるくたくましく」をスローガンに第二十五回県中学校体育大会が弘前市において開催された。

各競技ともレベルが高まり、「あすなろっ子」は、三年後の青森国体に向って大きくはばたいた。

短距離で、県記録を次々と更新する成田選手（大鰐中）
左から２人目。

全国大会で、ベスト８入りを果たした
車力中。

県内個人戦で優勝、今後も活躍が期待
される千葉選手（黒石市 東英中）

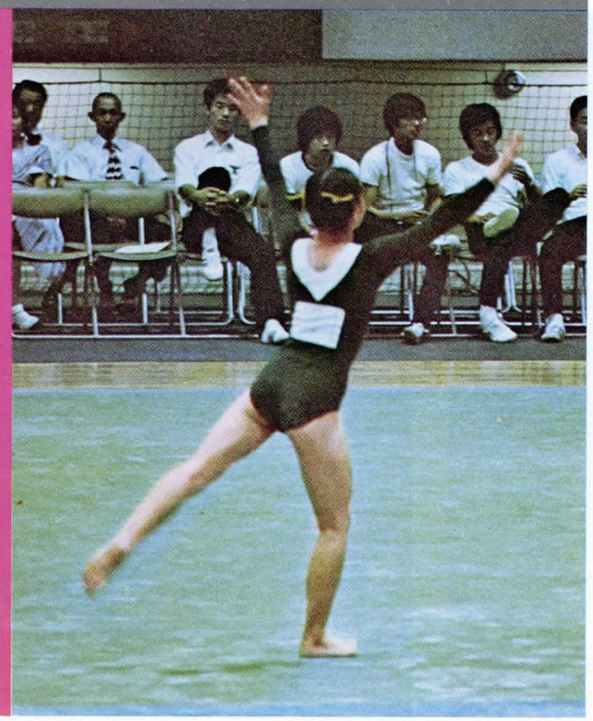
全国高校総体で活躍する本県選手

「明朗　友愛　躍進」をスローガンに、昭和四十九年度全国高校総合体育大会が、福岡・佐賀両県に若い力を集め、熱戦を繰り広げた。

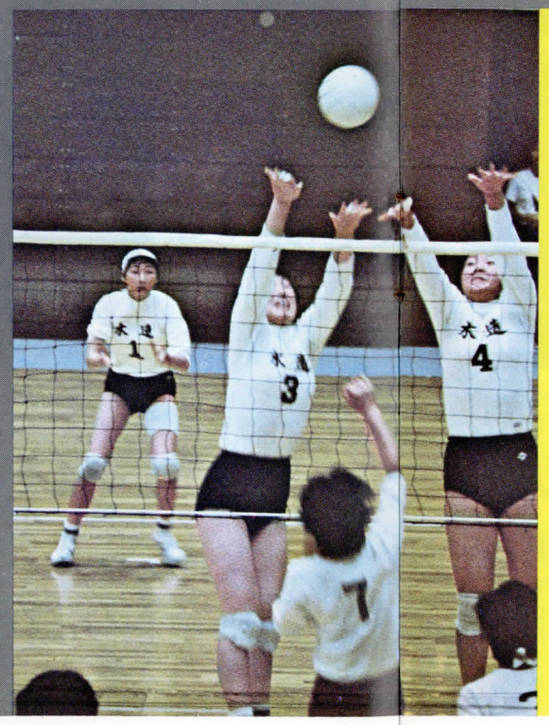
本県は、新岡団長以下六五七人を送り、連日三〇度を越す暑さの中で日頃鍛えた力と技を競い合った。

久留米市の県立陸上競技場で堂々の入場行進をする本県選手団。

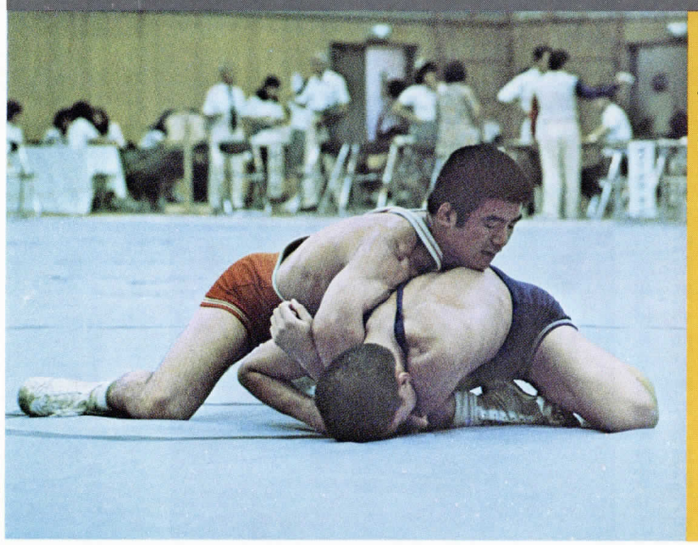
健闘!!八電波高初の総合優勝成る。



みごとな演技を見せた本県体操チーム。



女子バレーボール三回戦進出の木造高チーム。



団体戦八工チーム準決勝で惜しくも敗れ三位に終る。

みんなでスポーツに親しもう

「バドミントンクラブ誕生」

日ごろ仕事の都合や通勤等でスポーツをやりたくともなかなか時間がない働く仲間が結集し週一回は運動で汗を流そうと「あすなろバドミントンクラブ」が誕生しました。

これは、昨年七月から十回にわたり開講された「勤労者のためのバドミントン教室」が母体となり、この教室の受講生が「せっかくシャトルコックを思い通りに打てるようになったのに、このままやめてしまうのはもったいない。五十二年あすなろ国体のために私たちもなんらかの形で役に立ちたい」と、クラブ結成の運びになったのです。

最初二十名でスタートした「あすなろ」の根ッ子たちも、今では百名となり、毎週金曜日の練習には、風雨にもめげず、ラケットを携えて、足どりも軽やかにせっせと体育館に通い、縦横無尽にコートの中をかけづり回り、喜びの汗を流しています。

今では、ダブルス、シングルスの試合に一喜一憂し、みんなが仲間であることを強く感じ合い「あすなろ国体は私たちの手で」を合言葉に、全員真白なシャトルコックを張り切って追い続けています。

「ママさんテニス」

日ごろ運動の機会に恵まれない家庭の婦人に運動の機会を与え、明るく健康な家庭づくりを進めようと、昭和四十六年から「ママさんテニス」が行われております。

この「ママさんテニス」は、毎年四月から十一月まで毎週火・金曜日に青森市営テニスコートで、冬期間は体育館を利用して開かれ、二十代から六十代まで約八十名のママさんが参加しております。

毎週二回の練習日には、買物かごにラケットを入れ、足どりも軽くコートに集まり、初心者から往年の名手まで一緒になって、「ママがんばれ!!」というわが子の声援を受けながら、広いコートいっぱいに白球を追って走りまくっている姿は健康そのものです。

国体を契機に「県民総スポーツ」が叫ばれ、最近では、日頃家事に追われがちな家庭婦人にスポーツを楽しみながら、体力の向上をはかってもらおうと、各地で「婦人スポーツ教室」が盛んに開かれております。

県民のみなさん、これら各地で行われている「スポーツ教室」に積極的に参加し、スポーツで汗を流し、日頃の運動不足、ストレスを解消し、そして、明るく健康な家庭づくりを進めたいものです。

「随想」…あすなろ健児に不屈の闘志と粘りを

「国体の思い出」

成田睦子

「あすなろ国体」の準備が着々と進められているようですが、国体の言葉を耳にするたびに、今は遠い過ぎし日の昭和二十六年第六回広島大会を想い出します。

当時、私は弘前中央高ソフトボール部の一員として、尾道市で開かれました広島国体ソフトボール大会に出場することができました。県大会予選、東北北海道地区予選と無我夢中で勝ちすすみ、やる気充分で広島大会にのぞみました。私達中央高ナインは、まず南国地方の女子高生の体格に圧倒されました。まるで大人と子供のような違いで……。

しかし、私たちは津軽特有のじよっぱりとねばりで頑張り、惜しくも準決勝で須賀高（栃木）に6—3で破れはしましたが、精一杯戦いました。北国のハンデを背負いながらよく頑張ったものだと思います。

今は三児の母となりボールもバットも手にすることはありませんが、貴重な学生時代に思い切り何かをやりとげたと云う満足で一杯です。

野球をしてた父の影響で私もソフトボールを……でも当時は「女の子が」……と云う声をよく耳にしたものです。しかし、土にまみれて走り廻った想い出は、生涯私の心の支えになる事と信じています。

「あすなろ国体」が成功されますように、そして、あすなろ健児の活躍を一県民として切望して止みません。

（主婦　弘前市在住）

「あすなろ国体に思う」

鈴木一

青森国体開催が正式に決った。これは在京の県出身者にとっても嬉しいニュースであると同時にその成功を心から祈りたい。

卓球競技そのものについては昨年の千葉国体では総合三位で五十二年には地元のフルエントリーという利を生かしての総合優勝はまず固いと思っている。

ただ、ここで期待したいのは総合優勝ということだけに終らずに〝卓球王国青森〟復活の力強い姿を県民の人たちに見せてほしいということである。

現在の県球界は、河野満選手（青商出）の世界での活躍、山田高、田名部中の全国制覇など、その伝統の面目を保っているかに見えるが、この十年間、河野選手につづいて世界の檜舞台に進出する選手がいない。

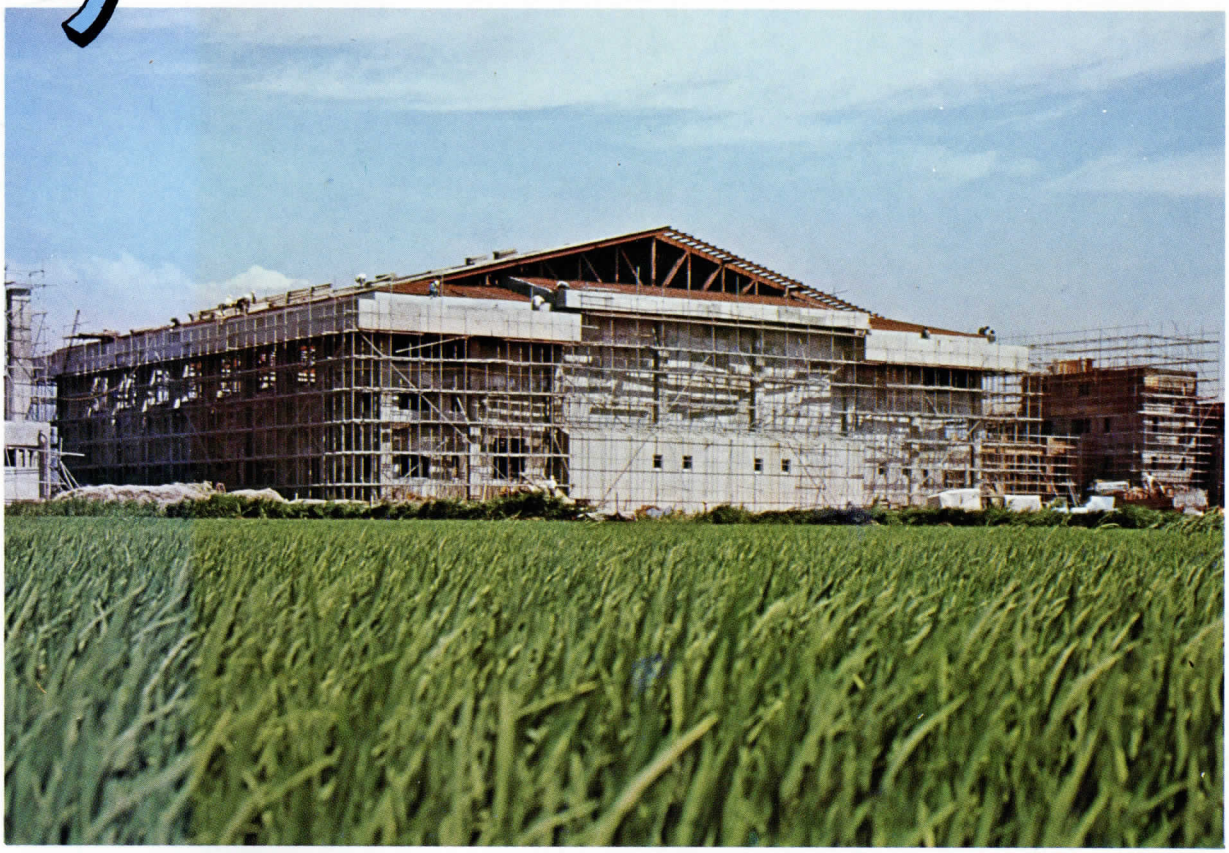
中学から高校前半までは、確かに他県にまさる優秀な素材を誇っているが、問題はそのあとで、いかにしてこれらのすぐれた素材を日本の頂点に、そして世界につなげるかに課題を残している。「日本が世界に再び君臨するためには、青森式卓球の復活が必要だ。」（山本弥一郎氏）という声も現実にある。

この国体開催を機に、かつての日本卓球の中心となった〝不屈の闘志と粘り〟の卓球青森の神髄が再現されることを心から期待したい。

（元日本卓球協会常任理事、卓球評論
弘前中—慶大　黒石市出身）

施設めぐり

バドミントン会場
浪岡町民体育館

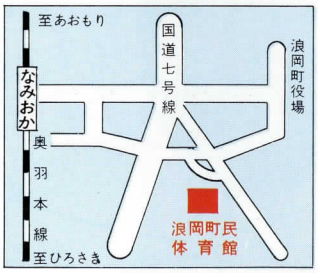


青森国体バドミントン競技会場地である浪岡町に、バドミントン競技主会場となる浪岡町民体育館が九月に完成されます。

体育館は、鉄筋コンクリート二階建、たて三八・五メートル、よこ三二・六メートル、広さ一、二五五・一平方メートル、収容人員は一、〇〇〇人で、中には放送及び記録室、更衣室、シャワー室等が完備されます。又、附属施設として、卓球場、柔道場、剣道場、トレーニング室もあわせて完成されます。

この体育館は、社会体育施設として、町民のために活用されることになります。

なお、九月二十一日から二十三日には、青森国体のリハーサル大会として、この体育館で、全日本社会人バドミントン選手権大会が行われます。



《回覧》

あすなろ国体 第3号

昭和49年9月10日発行

●企画・発行／第32回国民体育大会青森県実行委員会
●題字／青森県知事 竹内俊吉
●編集・レイアウト／株式会社 プレスアート〈仙台〉
●印刷／今野平版印刷株式会社〈仙台〉